



保線区作業

木製枕木は使用割合こそ減っているものの、メンテナンスを行うことで安価で使いやすく緩衝性などの特性もあり、地方路線で多く使用されており、都市圏でも分岐器工

路に多く敷設されているという。一方で耐久性

性で、高濃度の薬剤が木材に浸透、内部の水分と

結合することで成分の流出を防ぎ、人やペットには全性能規定にも合致する。枕木は噴霧作業だけ

ポリホウ酸ナトリウム

鉄道枕木向けに本格採用

防腐・防蟻・ 防炎効果付与 屋外市場開拓へ

BFC

BFC(大阪市、積山修也社長)はポリホウ酸ナトリウム「ボロンシールド」で攻勢をかける。ボロンシールドは同社が開発した薬剤で、木材に塗布することで防腐効果、防蟻効果、防炎効果が得られる。建材など木材向けを開拓する一方、熱による発煙防止として鉄道会社の枕木向けに一部採用されるなど実績を上げている。ここ



水溶性で成分の流出を防ぎ除草機能もあるボロンシールド

で効果が得られるなど簡便で、一部除草機能もあることから、保線区単位での注文が続いてきた。今回、大手鉄道会社が性能評価、本格採用を決めるとともに、昨年からの予

算化したことで販売量が一気にトンベースに増えたという。BFCは特定防火設備認定を受けた木製サッシ向けにボロンシールドを供給するなど屋内向けをメインとする。一方で、建設中の大型商業施設の

外装材にボロンシールドで処理した木材を提供中だ。鉄道会社での本格採用を機に今後、屋外向けへの展開を強化する方針で、枕木をはじめ保線区で用いる木材向けの採用につなげていく。